

主体的な意志・意欲に関わる心理プロセスの理解と教育実践開発への応用

人間科学研究科

准教授 後藤 崇志

https://researchmap.jp/g_ikuyakat


研究の概要

人の主体的な意志・意欲に関わる心理プロセスについて、特に教育・学習場面との関わりに注目して研究しています。基礎研究においては、「主体的に取り組もうとする意志・意欲は、どのような経験を通して形成されていくのか」という問いについて、自己制御・内面化・統合といった個人内過程だけでなく、規範や養育といった社会環境の影響も含めて検討しています。応用研究においては、「教育・学習環境が主体的に取り組もうとする意志・意欲を持つことができるものになっているか」という観点から分析し、新たな教育・学習環境を設計・評価することに取り組んでいます。2025年現在は、科学教育・法教育や、探究学習・ICTを利用した個別最適な学習などの教育実践を対象とした研究に取り組んでいます。

研究の背景と結果

日々の生活の中で、「したいこと」と「しなければならないこと」とが整合しない状況は多々あります。こうした意志・意欲面での心の葛藤をそのままにしている、日々の活動に主体的に取り組むことは難しく、成果の低下や、ストレス等の精神的な不健康に繋がってしまうこともあります。心の葛藤を減らし、主体的な意志・意欲を持って日々の活動に取り組んでいくためには、自身と周囲の人・社会規範等との間で生じる価値観の齟齬を調和させていくことが必要です。

教育場面でよくある例として、授業で教えられる内容を学ぶ価値がわからず、主体的な学習意欲に繋がらないことがあります。こうした状況では、授業で教えられた内容が日常生活の中での個人的な目標・活動などどのように結びつくかを考えてもらう介入手法が有効だと言われています。著者の実施した研究でも、この介入手法を行うことで主体的な学習意欲が向上し、深く継続的に学ぼうとする姿勢が促されることを示しています。

近年の学校教育の中では、探究学習が、この介入手法のように日常生活と授業での学習を結びつけて主体的な意志・意欲を持つことができるものとして期待されています。しかし、大規模な国際学力調査のデータ分析を含め、過去の実証的な研究知見からは、探究学習が必ずしも主体的な学習意欲には繋がるとは限らないことが示されてきました。著者らは、学習者が取り組むことへの価値を見出せるような課題を設定できるような探究学習の支援方法を開発・実施しています。

このように開発された教育支援は、幅広い層の学習者に利用してもらえることが理想的です。しかし、著者らが自治体と共同して1年間かけて実施した大規模な縦断調査の結果からは、教育支援の場に参加しやすいのはもともと主体的な意志・意欲の高い層であることが明らかになりました。商業施設で開催する、遊びをきっかけとしたプログラムを実施するなど、幅広い層にも参加してもらえるような実践の開発にも取り組んでいます。

研究の意義と将来展望

日々の活動に主体性をもって取り組むことは、その活動の成果を高める面でも、個人の精神的健康の面でも、重要な要素です。しかし、

人が他者と社会生活を共にしていくためには、制度や規範に従ったり、教育を受けたりすることが求められ、必ずしも個人の志向とは合致しない活動に取り組まなければならないこともあります。人の主体的な意志・意欲に関わる心理プロセスを明らかにし、その視点から教育・学習環境などの現実の場を分析・創造していくことで、個人の幸福と、社会の持続的発展との双方を実現する社会設計に貢献していきたいと考えています。

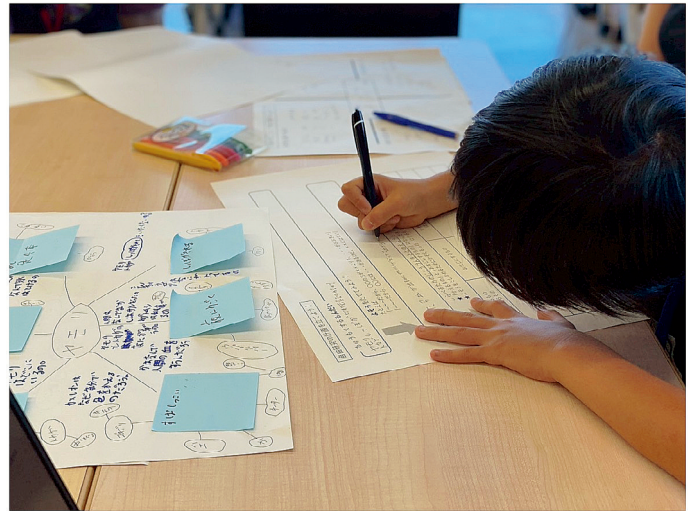


図1. 探求活動を支援する実践での参加児童の取り組みの様子（関連する実践の詳細は後藤他（2025）で報告）



図2. 商業施設で実施した遊び（スーパーボールすくい）をきっかけとした科学教育プログラムの様子（詳細は後藤・加納（2021）で報告）

特 許	Goto, Takayuki; Nakanishi, Kazuo; Kano, Kei. A large-scale longitudinal survey of participation in scientific events with a focus on students' learning motivation for science: Antecedents and consequences. <i>Learning and Individual Differences</i> . 2018, 61, 181-187. doi: 10.1016/j.lindif.2017.12.005
論 文	後藤崇志. 「セルフコントロールが得意」とはどういうことなのか—「葛藤解決が得意」と「目標達成が得意」に分けた概念整理. <i>心理学評論</i> . 2020, 63(2), 129-144. doi: 10.24602/sjpr.63.2.129
	後藤崇志. 加納圭商業施設での科学ワークショップの参加者層評価—科学への関心・意欲の多様な層のワークショップ参加を目指した試み. <i>日本教育工学会論文誌</i> . 2021, 45(1), 113-126. doi: 10.15077/jjet.44059
	Goto, Takayuki. Brief research report: The impact of a utility-value intervention on students' engagement. <i>The Journal of Experimental Education</i> . 2024, 92(4), 713-722. doi: 10.1080/00220973.2023.2229757
参 考 URL	後藤崇志, 西森年寿, 村上正行 (編). 基礎と事例で学ぶ教育工学のすすめ—「学ぶ」「教える」の探究から新しい実践を創る. ナカニシヤ出版. 2025. ISBN: 9784779518867
	後藤崇志, 高津遥, 倉島七海他. 課題価値と「理科の考え方」に着目した自由研究の課題設定と計画立案の支援. <i>日本教育工学会論文誌</i> . 2025. Advance online publication. doi: 10.15077/jjet.49016
参 考 URL	http://g01beza.web.fc2.com https://www.hus-et.net
キ ー ワ ー ド	モチベーション、セルフコントロール、探究学習、教育工学